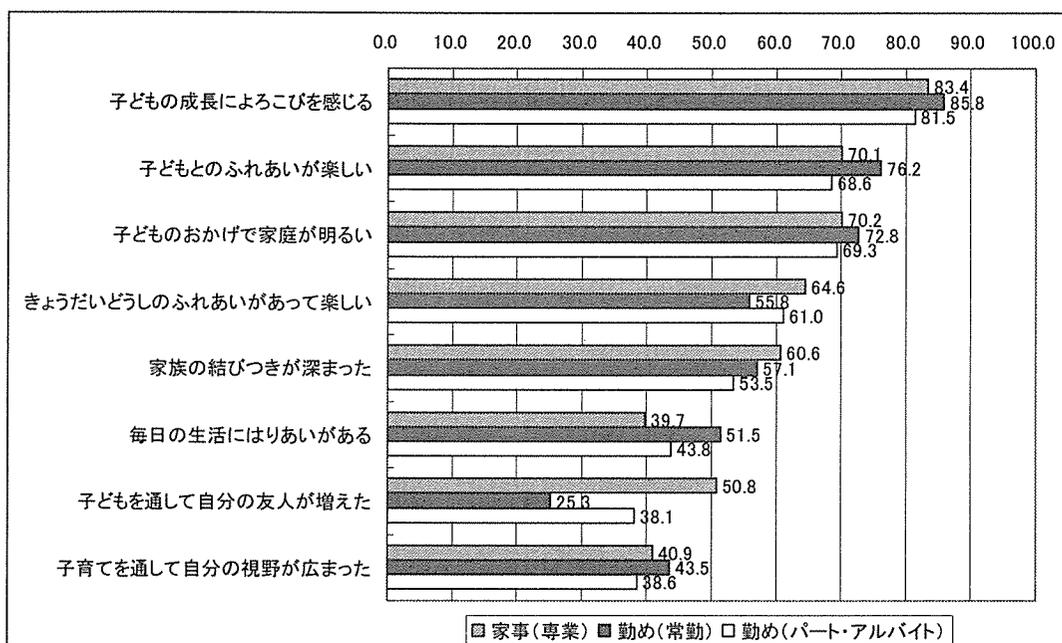


図1 子どもを育てていてよかったと思うこと



②否定的な項目について

「子どもを育てていて負担に思うことや悩み」は、専業主婦、常勤、パート・アルバイト層の間で1ポイントずつの差のみで、ほぼ同じ否定感の状況であるといえる(表2)。

負担に思うことや悩みの上位10項目を示したのが図2である。

専業主婦層で顕著に高いのが、「子どもを一時的に預けたいときにあずけ先がない」(14.6%)で、パート・アルバイト層の約2倍、常勤層の約2.8倍となっている。専業主婦層が高い項目は、「子育てによる身体の疲れが大きい」(常勤層と4.4ポイント差)、「子どもが言うことを聞かない」(常勤層と5ポイント差)、「目が離せないので気が休まらない」(常勤層と5.6ポイント差)、「子どもについてまわりの目や評価が気になる」(常勤層と4.1ポイント差)となっている。

常勤層で顕著に高いのが、「仕事や家事が十分にできない」(28.8%)であり、専業主婦層の1.8倍となっている。常勤層で高い項目は、「自分の自由な時間が持てない」(専業主婦層と1.7ポイント、パート・アルバイト層と10.5ポイント差)、「気持ちに余裕をもって子どもに接することができない」(専業主婦層と2.2ポイント差)である。

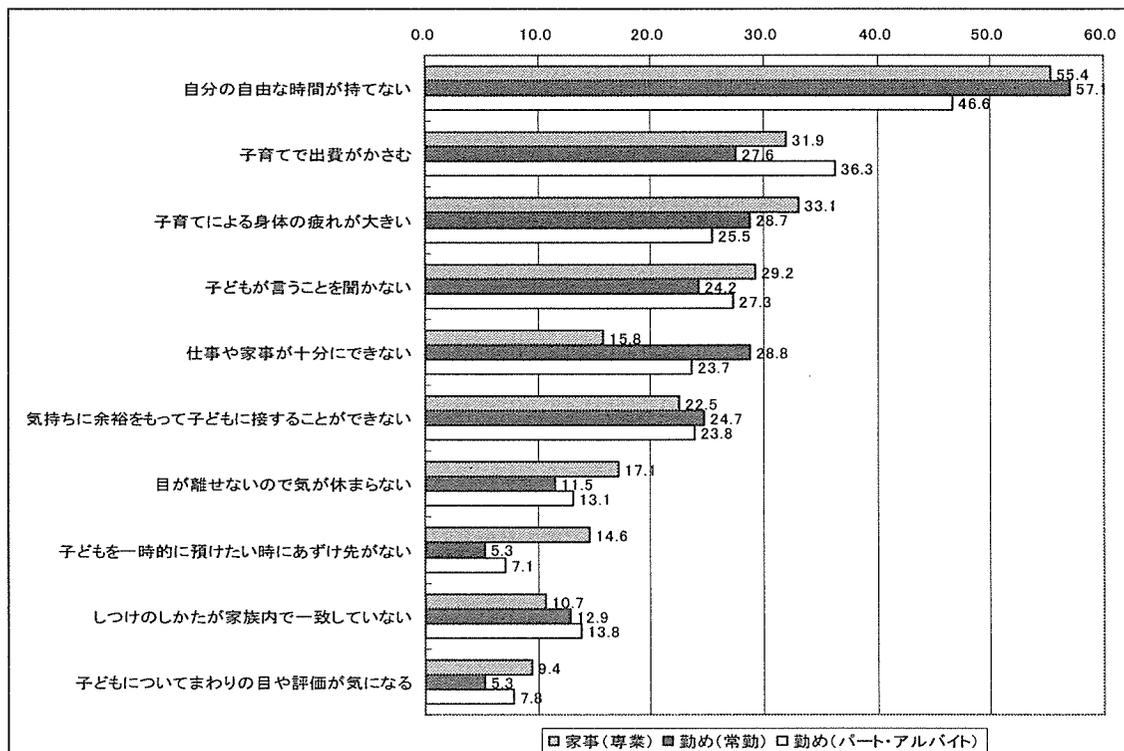
パート・アルバイト層で高いものが、「子育てで出費がかさむ」(36.3%)であり、専業主婦層の1.3倍となっている。また、「しつけのしかたが家族内で一致していない」も若干であるが高くなっている。

以上より、第4回調査からは、「専業主婦が就業する母親よりも育児不安が高い」というよりはむしろ、専業主婦、パート・アルバイト、常勤層の間で、育児をめぐる否定的な心理のあらわれ方が異なることが示唆される。

表2 子どもを育てていて負担に思うことや悩み

	負担に思うことや 悩みがある	負担に思うことや 悩みは特にはない	不詳	合計
家事(専業)	88.4	11.2	0.4	100.0
勤め(常勤)	87.4	12.1	0.5	100.0
勤め(パート・アルバイト)	86.3	13.0	0.7	100.0

図2 子どもを育てていて負担に思うことや悩み



2. 何への〈不安／負担／悩み〉なのか

専業主婦、パート・アルバイト、常勤層で育児をめぐる否定的な心理のあらわれ方が異なるということは、具体的には何を意味するのだろうか。ここで、各層における〈不安／負担／悩み〉の傾向を具体的に検討してみる。

ここで、出生児調査でたずねている19の否定的な項目群（その他含む）のなかで、ごく低い回答率の項目を除いたうえで、いくつかの類型に分けてみる。

まず、「時間不足感」「精神的余裕の不足感」に括ることができるように思われるのが、「自分の自由な時間が持てない」「仕事や家事が十分にできない」「気持ちに余裕をもって子どもに接することができない」「目が離せないので気が休まらない」の4項目と思われる。この4項目は、「自分の自由な時間が持てない」は時間不足感、「気持ちに余裕をもって子どもに接することができない」は精神的余裕の不足感といえるが、「仕事や家事が十分にでき

ない」「目が離せないなので気が休まらない」は、時間不足と精神的余裕の不足感が混在している感覚ともいえる（表3〔1〕）。

次に、「子どもの預け先の不足」、「急病の時の医者が近くにいない」という問題は「制度の不足感」と括ることができるように思われる。家族関係として、「配偶者が育児に参加してくれない」については、「配偶者の参加不足感」、「しつけのしかたが家族内で一致しない」は「家族内で子育て方針の不一致」といいかえられる（表3〔2〕）。

さらに、「子どもの行動・育ち」の問題として、「子どもが言うことを聞かない」「子どもの成長の度合いが気になる」「子どもについてまわりの目や評価が気になる」「しつけのしかたがわからない」「子どもが病気がち」「子どもが保育所・幼稚園に行きたがらない」が該当すると思われる。

以上のような類型化を試みながら各層の実態をみると、次のような傾向が浮かびあがってきた。

第一に、時間不足感、精神的余裕の不足感が高く出ているのが常勤層であるといえる。専業主婦は、気が休まらず、身体的疲労感が高い傾向が出ている（表3〔1〕）。

第二に、一時保育の制度不足感は専業主婦で最も高い。一方で、医者の問題、経済的負担感、配偶者の参加不足感や家族内の不一致という点においては、パート・アルバイト層で最も高い傾向が出ている（表3〔2〕）。

第三に、子どもの行動や育ちの面では、専業主婦の回答率が高い傾向が出ており、育児に関する社会の期待水準（成長の度合い、まわりの目や評価）が気になる実態があらわれているのではないかと。また、子どもが病気がち、子どもが保育所・幼稚園に行きたがらないでは、パート・アルバイト層で高くなっている（表3〔3〕）。

表3 育児をめぐる否定的な心理のあらわれ方

〔1〕 時間・精神的余裕の不足感と身体的疲労

	時間不足感		精神的余裕の不足感		身体的疲労	
	自分の自由な時間が持たない	仕事や家事が十分にできない	目が離せないで気が休まらない	気持ちに余裕をもって子どもに接することができない	子育てによる身体の疲れが大きい	
家事(専業)	55.4	15.8	17.1	22.5	33.1	
勤め(常勤)	67.1	28.6	11.5	24.7	28.7	
勤め(パート・アルバイト)	46.6	23.7	13.1	23.8	25.5	

〔2〕 制度不足感、経済的負担感、家族関係

	制度の不足感		経済的負担感		家族関係	
	子どもを一時的に預けたい時にあずけ先がない	子どもが急病の時診てくれる医者が近くにいない	子育てで出費がかさむ	配偶者が育児に参加してくれない	家族内で子育て方針不一致	しつけのしかたが家族内で一致していない
家事(専業)	14.6	3.5	31.9	6.9	10.7	
勤め(常勤)	5.3	2.8	27.6	5.7	12.9	
勤め(パート・アルバイト)	7.1	3.8	36.3	7.9	13.8	

〔3〕 子どもの行動・育ち

	子どもの行動・育ち					
	子どもが言うことを聞かない	子どもの成長の度合いが気になる	子どもについてまわりの目や評価が気になる	しつけのしかたがわからない	子どもが病気がちである	子どもが保育所・幼稚園に行きたがらない
家事(専業)	29.2	8.1	9.4	7.7	3.6	2.3
勤め(常勤)	24.2	6.5	5.3	6.3	3.9	2.6
勤め(パート・アルバイト)	27.3	7.4	7.8	7.5	4.6	2.7

注：専業主婦、常勤、パート・アルバイト層のなかで最も高い数値に網かけ。

3. まとめと次年度の課題

以上、第2回出生児調査で示された「専業主婦の方が就業する母親より育児負担感が高い」という結果について第4回出生児調査で検討を行うとともに、専業主婦、パート・アルバイト、常勤の各層における子育て意識の傾向について、探索的な分析を行った。第4回調査を通じては、「専業主婦の方が就業する母親より育児負担感が高い」というよりはむしろ、専業主婦、パート・アルバイト、常勤層の間で、育児をめぐる否定的な心理のあらわれ方が異なる、ということが確認された。特に、専業主婦では一時保育の制度不足感、常勤層では時間や精神的余裕の不足感、パート・アルバイト層では経済的負担感の高さや配偶者の育児参加不測が特徴として浮かび上がってきた。本分析の含意として、「育児負担感がどの層で高いか・低い」という議論をこえて、「どの層において、育児をめぐるどのような否定的な心理があらわれているのか、それはなぜか」ということを今後、より詳細に問うていく必要があると思われる。

次年度の課題

本稿において、一時保育の制度不足感、時間や精神的余裕の不足感、配偶者の参加不足感と示してきたのは、これらの現象を従来の「育児不安」という包括的な概念で示すよりは、より具体的に「不足感」と示した方が、制度・時間・精神的余裕・配偶者の育児参加といった「不足の状況」を概念上でもわかりやすく示すことができるのではないかと考えたからである。

ただし、「育児不安」「育児負担」「育児の悩み」という、(ややもすれば混在して使われている)諸概念ではなく、「不足感」と示すことの意味や、〈不安/負担/悩み〉というこれまで使われてきた概念との関係など、本稿では十分に議論を行うことができなかった。これらの点については、次年度の課題としたい。

また、本稿は母親の就業状況という観点から、第4回調査を用いて探索的に各層の特徴を浮かびあがらせる試みであった。次年度は所得や他の変数も加えたうえで、育児をめぐる否定的な意識の傾向について、各年次ごとにパネルデータを生かした時系列分析を行っていきたい。

ⁱ 出生児調査の第1・2回調査では、「お子さんをもって負担に思うことは何ですか」「子育ての不安や悩みがありますか」というたずね方であったのに対して、第3回調査以降は、「お子さんを育てていて負担に思うことや悩みについて」と統合している。

ⁱⁱ 牧野カツコ (1981)「育児における〈不安〉について」『家庭教育研究所紀要』No.2, 43頁。

ⁱⁱⁱ 牧野カツコ (1989)「〈育児不安〉の概念とその影響要因についての再検討」『家庭教育研究所紀要』No.10, 25頁。

^{iv} 牧野カツコ (1981)「育児における〈不安〉について」『家庭教育研究所紀要』No.2, 43-4頁。具体的には以下の通り。

1. 不安の構造の面からの測定
 - 1) 不安の内容 (育児上の何に不安を感じるか)
 - 2) 不安の方向 (過去、現在、近い将来、遠い将来、等に対する不安)
 - 3) 不安の強さ (自覚の程度、訴えの程度)
 - 4) 不安の深さ (一時的、慢性的、蓄積的)

2. 不安に関連する問題からの測定

- 1) 不安に伴う生理的徴候から（緊張亢進、育児に対する疲労感、不眠など）
- 2) 期待水準と実現水準についての認知とそのズレから
- 3) 不安のない状況から（育児への自身、安心感、満足感、充実感の存在の有無）

3. 事例からの測定

- 1) 適及的な把握（子または親の問題行動の原因・背景を不安の側面から再チェックする）
- 2) 予見的な把握（訴えられた育児不安はどのような条件で、軽減または増加するか）

v 牧野カツコ（1989）「＜育児不安＞の概念とその影響要因についての再検討」『家庭教育研究所紀要』No.10, 26 頁にて提示されている 14 の指標は次の通りである。

<p>I. 一般的疲労感</p> <ol style="list-style-type: none"> ①毎日くたくたに疲れる ②朝、目ざめがさわやかである <p>II. 一般的気力の低下</p> <ol style="list-style-type: none"> ③考えごとがおっくうでいやになる ④毎日はりつめた緊張感がある ⑤生活の中にゆとりを感じる <p>III. イライラの状態</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑥子どもがわずらわしくてイライラしてしまう ⑦自分は子どもをうまく育てていると思う 	<p>IV. 育児不安徴候</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑧子どものことでどうしたらよいかわからなくなることがある ⑨子どもは結構一人で育っていくものだと思う ⑩子どもをおいて外出するのは心配で仕方がない <p>V. 育児意欲の低下</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑪自分一人で子どもを育てているのだという圧迫感を感じてしまう ⑫育児によって自分が成長していると感じられる ⑬毎日毎日、同じことの繰り返ししかしていないと思う ⑭子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う
---	---

vi 牧野カツコ（1989）「＜育児不安＞の概念とその影響要因についての再検討」『家庭教育研究所紀要』No.10, 26 頁。

vii 内閣府（2004）『平成 16 年度 少子化社会白書』43-4 頁。

14 リプロダクティブ・ヘルス・プロモーションの評価における 21世紀出生児縦断調査の利用可能性について

岩澤 美帆
三田 房美

要約

親が出産や育児を健康的に行い、子どもの福祉を向上させるための環境整備は、わが国における重要な政策課題となっている。21世紀出生児縦断調査は大規模標本であることから、通常の標本調査では分析対象から漏れやすい母子の健康・福祉を損ないやすい環境にあるマイノリティについても、子育ての実態を継続的に観察することができる。本研究ではこうしたリスク行動の発生率と、関連の深い諸条件の特定を試みた。単変量分析では所得と出生年齢や両親の喫煙とに関係があること、婚外出生児の場合に脱落が多いことなどが示唆された。今後は、多変量解析を用いてより詳細に要因を特定するとともに、母子の健康状態や子育ての負担感との関連を見ることによって、優先的に対処すべきリスク行動や環境について議論したい。

はじめに

21世紀の初年に生まれた子の実態を経年的に観察することを目的とした「21世紀出生児縦断調査」は、出生児の成長過程や子育て環境の実態を明らかにすることによって、厚生労働行政をはじめとした社会のしくみづくりに役立つものとして、大いに期待されている。わが国において出生率が低迷する中、近年、頻繁に聞かれるのが、子育てに関する困惑と不安の声である。子育て世代の困惑の原因は何なのか、何に対して不安を抱えているのか、どのような環境にある人が、そうした不安を抱えやすいのか、それらを把握するためには子どもと子育て環境の実態から接近することが第一歩であると考えられる。

本研究では、出産・子育てについて様々な切り口がある中で、リプロダクティブ・ヘルスという側面に注目してみたい。リプロダクティブ・ヘルスとは、直訳すれば生殖にかかわる健康となる。しかしそこには、セクシュアリティを含んだ人権や、社会的観点をも含んでおり、幅広い視点と意義を有している（佐藤 2005）。リプロダクティブ・ヘルスの概念と意義については後述するとして、本研究では、21世紀出生児縦断調査を活用することによって、わが国の少子化の背景にあるリプロダクティブ・ヘルスに関わる課題を明らかにし、行政の取り組みを評価する可能性をさぐりたい。

1. 少子化とリプロダクティブ・ヘルス

リプロダクティブ・ヘルスの概念は、1994年のカイロ国際人口・開発会議以降、人口・開

発問題に関わる分野で急速に浸透した。同会議では、リプロダクティブ・ヘルスを、WHOの健康理念に基づき「人間の生殖システム、その機能活動過程のすべての側面において、単に疾病、障害がないというばかりでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態にあることを示す」と定義している。ただし、その内容は「生殖年齢にあるカップルを対象とする家族計画と母子保健」という狭い領域に限定されるものではなく、「思春期保健」、「望まない妊娠」、「人工妊娠中絶」、「妊産婦死亡」、「HIV/エイズを含む性感染症」、「不妊」、「ジェンダーに基づく暴力」など多岐にわたる。一般的にリプロダクティブ・ヘルスが着目されるのは、人口増加が著しい地域において、それが改善されることにより、出生率が低下することが期待される場面が多い。しかしながら、佐藤が指摘しているように、少子化に直面しているわが国においても、リプロダクティブ・ヘルスの改善が少子化の解消に重要な役割を担う可能性があり（阿藤 2000, 佐藤 2005）、本研究もそうした問題意識にそって進めていきたいと考えている。たとえば、松田(2006)によれば、出生意欲と育児不安は強い負の関係にあり、育児不安の軽減が、出産をためらう意識を払拭できる可能性が導かれる。育児不安には、経済的な要因も当然考えられるが、リプロダクティブ・ヘルス、すなわち健康的に、安全に、妊娠や出産を迎えられるのか、そして、子どもを健康に育てられるのかといったことも、育児不安に大きく関わってくる側面であると考えられる。リプロダクティブ・ヘルスの実態と育児不安との関係を明らかにすることによって、昨今の育児不安を解消し、それにともなって出生の先送り意識が変わる道筋が見えてくるかもしれない。

さて、日本においては、「健やか親子 21」といった国民運動計画をはじめ¹、国や自治体が様々な健康増進プログラムの中でリプロダクティブ・ヘルスの改善が取り組まれている。また人口減少に関わる少子化の背景として注目されている晩婚化や不妊問題等との関連で、思春期保健や母子保健の問題が議論される機会も増えてきた。こうした社会における問題を掘り起こし、取り組みの方向性を定め、その取り組みの成果を評価するためには、リプロダクティブ・ヘルスの現状がどのようなものであり、またそれが問題とされる行動や結果にどのように関連しているのかを正確に知る必要がある。人口動態統計や母体保護統計をはじめとした届出統計や行政による定期的なモニタリング調査を中心に、ある程度の実態はつかめているものの、欧米諸国に比較すると、わが国におけるコーホート分析や因果分析は十分とはいえない状況にあると言えよう²。そのような中で、21世紀出生児縦断調査は、大規模全国標本での分析を可能にする貴重な調査であり、出生をとりまく疾病予防と健康

¹ リプロダクティブ・ヘルスに関わる行政の取り組みとしては、これに先立ち、当時の厚生省児童家庭局母子保健課によって平成 10 年に「生涯を通じた女性の健康施策に関する研究会」が発足し、翌年『生涯を通じた女性の健康施策に関する研究報告書』がとりまとめられている。こうした動きの背景には、平成 7 年、北京において開催された第 4 回世界女性会議において、リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）が重要なテーマとして討議されたこと、そして、平成 8 年 12 月に策定された「男女共同参画 2000 年プラン—男女共同参画社会の形成の促進に関する平成 12 年（西暦 2000 年）度までの国内行動計画—」に、重点目標として「生涯を通じた女性の健康支援」が盛り込まれたこと、などがある。

² 「健やか親子 21」の取り組みの評価の試みについては、榎本・藤内(2006)、尾崎・藤内(2006)といった先行研究がある。

増進、また広く個人の生涯にわたる福祉の向上にも大きく貢献することが期待できる。

本報告では、出生児縦断調査のデータを用いて、我が国のリプロダクティブ・ヘルスの評価を行うことを最終目的とした上で、そうした分析を可能にするために必要な、リプロダクティブ・ヘルス関連の指標の生成と基本的な変数との関連性の整理を行う。本報告では第1回から第4回までの21世紀出生児縦断調査のデータを使用する。

2. わが国の保健プログラムと調査の活用

本研究では、縦断調査におけるリプロ・ヘルス指標を分析対象とするが、最終的な目標として二つを掲げたい。一つは、すでに行政によって取り組まれている保健プログラムの評価としての活用である。もう一つは、分析によって明らかになるリプロ・ヘルスの実態が、昨今の少子化にどのような影響を与えているのか、そして今後の少子化の進展についてどのような見通しを与えるのかを明らかにすることである。

行政による保健プログラムとしては、わが国の母子保健の国民運動計画である「健やか親子 21」が例として挙げられる。「健やか親子 21」では、4つの課題を設け、それぞれの状況を示すいくつかの指標の動向について目標を定めている。課題と目標を以下にまとめた。

- ① 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進
 - ・ 十代の自殺率(減少傾向へ)
 - ・ 十代の人工妊娠中絶実施率（減少傾向へ）
 - ・ 十代の性感染症罹患率（減少傾向へ）
- ② 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援
 - ・ 妊産婦死亡率（半減）
 - ・ 産後うつ病の発生率（減少傾向へ）
 - ・ 産婦人科医、助産師の数（増加傾向へ）
- ③ 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備
 - ・ 全出生中の低出生体重児の割合（減少傾向へ）
 - ・ 不慮の事故死亡率（半減）
 - ・ 妊娠中の喫煙率、育児期間中の両親の自宅での喫煙率（なくす）
- ④ 子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減
 - ・ 虐待による死亡数（減少傾向へ）
 - ・ 出産後1ヶ月時の母乳育児の割合（増加傾向へ）
 - ・ 親子の心の問題に対応できる技術を持った小児科医の割合(増加傾向へ)

ここにあげられている指標は、リプロダクティブ・ヘルスの実態を評価するための直接的指標となる。こうした指標の中には、専門職の育成や専門技術の発達といった特定の専門分野での対応が中心となるものもあるが、多くの場合、こうした指標に関わる人々の行動や認識が変化することを期待しなければならない。そのためには、危険行動がどのような属性や背景をもつ集団に多いのか、それが変化するためには、どのような取り組みに効果があるのかを調査することが有効であろう。実際、1994年の国際人口開発会議後のプログラムの検証を目的としたICPD+5のレポートでは、リプロ・ヘルス政策やプログラムにおいて、社会的、文化的、経済的、行動的側面における視点が欠かせないことが指摘されている。そこで、リプロダクティブ・ヘルスの水準を直接あらかず指標のみならず、教育や就業、所得といったバックグラウンド、そして結婚や離婚、夫婦関係、出身家族の情報といった個人をとりまく、様々な現状についても目を向け、リプロダクティブ・ヘルスを損なう行動指標との関連を見ていく必要がある。さらに、近年の欧州を中心とした先進諸国のパブリック・ヘルスの考え方には、単に「疾病を予防」し、「健康に対する危険を取り除く」ことだけでなく、「健康を増進する」ことが含まれてきている(川又 1999)。リプロダクティブ・ヘルスに関しても、問題点を除去するのみならず、さらに増進への道筋を見つけていくことが課題であると考えられる。

こうした多岐にわたる問題を整理するために、これまでも標本調査が活用されてきた。例えば、米国の疾病予防管理センター(CDC)にある、国立保健統計センター(NCHS)では、定期的に全国家族調査(National Survey of Family Growth)を実施し、妊娠・出生に関わる基本的な実態をはじめ、出生力の近接要因である性交、避妊、人工妊娠中絶、死産の実態や健康状態、対象者の社会経済的背景などを観察している(Chandra et al. 2005)。参考までに、報告書における主要なテーマを列挙すると、以下のようになる。

- ・ 妊娠・既往出生児数(無子)、予定子ども数
- ・ 婚外子
- ・ 望んだ出生、望まない出生
- ・ 月経と性交
- ・ 結婚と同棲
- ・ 避妊の実行
- ・ 妊孕力の低下、不妊、不妊手術
- ・ 妊娠と健康(初診時期、喫煙、低出生体重児、出産費用)
- ・ 子育て環境
- ・ 養子、再婚、里子
- ・ 医療サービス
- ・ 不妊治療
- ・ 他の健康状態と行動(喫煙、HIV、性交相手の数)

なお、わが国においても、国立社会保障・人口問題研究所による出生動向基本調査において、妊娠歴や避妊行動、第13回調査では女性の健康面に関する調査が開始され、結婚や出生行動との関連が分析されている（国立社会保障・人口問題研究所 2006a,2006b）。

NSFG では、リプロダクティブ・ヘルスに関する直接的な指標のみならず、指標同士の関係や、社会経済的地位による差異などが詳細に分析されている。リプロダクティブ・ヘルスは、家族計画や母子保健に限定されない、生涯にわたる身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態が目指されていることをすでに述べた。その中には家族形成の特徴（結婚や子ども数）も含まれてくる。例えば、今日、多くの先進諸国で、離婚や同棲の増加、晩婚化、母親の労働力化など、家族の変容が観察されているが、こうした変化の影響が、社会経済的地位によって異なることが指摘されている(McLanahan 2004)。すなわち、社会経済的地位の高い集団にとっては、こうした変化が福祉の向上につながっている一方で、社会経済的地位の低い集団にとっては、とくに女性と子どもの福祉にマイナスの影響が出る傾向にある。そこで、本報告では、一般に母子の福祉にとって好ましくないといわれている行動や、社会的に不利な状況を招いているとみられる諸条件(リスク条件)にあてはまる集団に着目し、その集団の標本における割合および、基本属性と他のリスク条件との関連をクロス集計として記述する。

3. 出生児縦断調査におけるリプロダクティブ・ヘルス指標

以上の事情をふまえて、今回、出生児縦断調査の分析においては、以下のリスク条件に着目した。各リスクに関する知見や先行研究について、簡単に触れたい。

(1)10代の出産

10代の妊娠は、早産、貧血、妊娠高血圧腎症、低体重児といったリスクが高まるとされる(Harvard Medical School, InteliHealth)。また10代の母親は教育年数が短くなる傾向があるほか、意図せざる出生、一人親、貧困などと結びつくケースが多く、先進諸外国では、こうしたケースの予防活動が取り組まれている(The National Campaign to Prevent Teen Pregnancy 2006)。日本における10代の出生率は、先進諸外国の中では最低レベルに位置しているものの(Singh and Darroch 2000)、年齢別出生率で見ると、近年上昇傾向にあるため、今後こうした問題が大きくなる可能性も否めない。

(2)高齢初産

日本産婦人科学会によれば、1993年以降、母親が35歳以上の初産を高齢初産と定義している。実際に、30代後半頃より、妊娠・出産に伴う医学的なリスク（染色体異常児の発症や流産、難産、産後の回復の遅れなど）が高まることが確認されているが（佐藤 2005）、他方で、若年世代よりも経済的、精神的余裕があるという指摘もあり、実際に母子の健康

に与える総合的な影響の検証が必要である。

(3)婚前妊娠結婚

婚前妊娠結婚には、意図せざる妊娠が多く含まれる可能性が高く、その場合、妊娠のケアが遅れたり、不十分であるリスクを伴うといわれる。また、結婚の安定性が低い（離婚確率が高い）ことが予想される（レイモ・岩澤 2005）。

(4)母の喫煙・父の喫煙

喫煙は、低出生体重児や早産の要因となることが指摘されている。また乳幼児突然死症候群(SIDS: sudden infant death syndrome)のリスク要因としても確認されており、「健やか親子21」においては、SIDSの予防法として、両親の禁煙が推奨されている。

厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室による「平成16年国民健康・栄養調査報告」によれば、「現在習慣的に喫煙している」女性は、20代、30代ともに18.0%で、12年前（平成4年調査）のおよそ2倍になっている。

(5)低出生体重児

低出生体重児は、出生体重1000g未満の超低出生体重児、出生体重1500g未満の極低出生体重児、出生体重2500g未満の低出生体重児と分類されている。低出生体重児は周産期死亡率も高く、長期的予後からも後障害や罹患率が高率であり家族の受ける精神的・経済的負担も大きいことが報告されている。ちなみに、わが国における近年の低出生体重児割合上昇の原因は、死産の減少、複産の増加、妊娠期間の短縮といった要因が絡んでいることが指摘されている(角南・勝山 2005)。

出生児縦断調査では、出生時以降も、各調査において出生児の体重を訊ねている。ただし、必ずしも調査年月日ではなく、計測日を記載する形で訊ねられているので、分析の際には、出生時からの時間経過をあわせるための工夫が必要となる。

(6)多胎

近年の生殖補助医療の進歩に伴って、わが国では多胎妊娠の頻度が増加している（今泉 1993）。多胎は妊娠時の母体や、出産後の両親の心身面での負担になりやすい(横山 2002)。子育て負担感の規定要因をさぐった元森(2006)の分析でも、多胎という事情が、様々な心理的負担を高めている結果が出ている。

(7)高出生順位

高出生順位は意図せざる妊娠である割合が高い傾向にある（佐藤・岩澤 1998）。また、出生間隔が短い場合は、兄や姉の育児と重なるため、育児において親の経済的・心身面の負担が大きいと考えられる。ここでは4子以上を多産とみなし、変数化した。

(8)婚外子

諸外国では上昇傾向にある婚外出生であるが、同じ婚外出生でも、母親の年齢や社会経済的地位、同居する父親の有無などによって子どもの福祉に違いがみられることが指摘されている(Wolfe 2003)。日本では現在2%と水準そのものは低いものの、増加傾向にあるとともに、若い年齢で多いため、母子の福祉にマイナスの影響を与えていることが懸念されている。

(9)両親との同別居

両親との同居に比べ、一方の親とのみ同居しているケースでは、育児時間や経済面で不利な場合が多い(Cherlin 2003)。一人親における負担感の実態を明らかにする必要がある。

(10)外国人の母

国際結婚の増加に伴い、外国人の母親による出生は増加傾向にある。2005年、日本における総出生数に占める、母が外国人である割合は3.3%であった(国立社会保障・人口問題研究所 2006c)。言葉や文化の問題に直面しやすい母親は、子育てにおいても様々な困難を抱えやすい可能性がある。

以下の項目について、データ上に新しい変数を作成した。上記のリスク集団の割合を算出するとともに、主要な属性変数との関連を末尾の表にまとめた。標本数、および個別の属性の内訳を示す百分率(列百分率)と、属性の項目ごとに、関心対象変数の構成を示す百分率(行百分率)を示した。

ここでとりあげた属性変数とは、対象児の出生順位、母の出生時年齢、出生時結婚持続期間(婚外子)、母学歴、父学歴、第1回調査時の夫婦年収、第2回調査時の夫婦年収、第4回調査時の夫婦年収、妊娠前の母の就業、第1回調査時の母の就業、第2回調査時の母の就業、第4回調査時の母の就業、10代出産、高齢出産、婚前妊娠、母の喫煙、父の喫煙、出生時体重、多胎、である。

これらの集計によって、あるリスク条件がどのような属性の構成になっているか、また属性によって、リスク集団割合が異なっていることなどがわかる。これらの変数同士は、互いに独立でないことも多く、因果関係を結ぶこともできるものが含まれている。本稿の最後には、こうした変数同士の関係を概観する一つの方法として、対応分析³によるプロットを示した。図1は上記の10変数のうち、出生児と父母との同別居変数を除外し、代わりに第4回調査時点での父母の合計収入変数を加えて分析を行った結果である。夫妻の経済力と特定の行動が結びついている可能性、特定の行動で、脱落サンプルが多い可能性などが予測できるので、これらの点について、さらに詳しい分析が必要である。

³ 質的データのクロス集計結果を用いて、行の要素と列の要素の相関関係が最大になるように数量化し、行の要素と列の要素を多次元空間に表現する手法。相関の高い変数が近くにプロットされる。

4. 今後の課題

本研究では、近年の出生力低下の背景にあるリプロダクティブ・ヘルスの実態と課題を、21世紀出生児縦断調査を用いて明らかにすることを目的としている。ここでいうリプロダクティブ・ヘルスには、単に母子保健や医療的な観点にとどまらず、人権や意識、社会的弱者や社会経済システムといった社会的観点も含んでいる。本稿では、リプロダクティブ・ヘルスの評価に関連すると思われる諸条件について、データを変数化し、分布や他のリスク条件との関連をクロス集計で示すことを試みた。今後は、こうした基礎データをもとに、因果関係について整理し、母子の健康状態や、子育てで負担感といったものとの関連を見ていく予定である。

文献

- Chandra, A., G.M.Martinez, W.D.Mosher, J.C.Abma, J Jones. 2005. "Fertility, Family Planning, and Reproductive Health of U.S. Women: Data from the 2002 National Survey of Family Growth." National Center for Health Statistics. *Vital and Health Statistics*, Series 23, Number 25.
- Cherlin, Andrew J. 1999. "Going to Extremes: Family Structure, Children's Well-Being, and Social Science." *Demography*, 36(4), pp. 421-428.
- Cherlin, Andrew. 2003. "Family Demography." In: Paul Demeny and Geoffrey McNicoll (Eds.) *The Encyclopedia of Population*. New York, Macmillan Reference USA, vol.1, pp.355-361
- Harvard Medical School, IntelliHealth. *Risks For Pregnant Teens*. < <http://www.intelihealth.com/IH/ihtIH/WSIHW000/31697/25753/310396.html?d=dmContent>>.
- McLanahan, Sara.2004. "Diverging Destinies: How Children are Faring under the Second Demographic Transition." *Demography*, 41, pp.607-627.
- Singh, Susheela and Jacqueline E. Darroch.2000. "Adolescent Pregnancy and Childbearing: Levels and Trends in Developed Countries." *Family Planning Perspectives*, 32(1), pp. 14-23.
- Stephen, Elizabeth Hervey and Anjani Chandra. 2000. "Use of Infertility Services in the United States: 1995." *Family Planning Perspectives*, 32(2): 132-137.
- The National Campaign to Prevent Teen Pregnancy.2006. *Teen Pregnancy: So What?(October 2006)*.< <http://www.teenpregnancy.org/whycare/sowhat.asp>>.
- Wolfe, Barbara L. 2003. "Nonmarital Fertility." In: Paul Demeny and Geoffrey McNicoll (Eds.) *The Encyclopedia of Population*. New York, Macmillan Reference USA, vol.1, pp.410-412.
- 阿藤誠.2000.『現代人口学：少子高齢社会の基礎知識』日本評論社.
- 今泉洋子.1993.「人口動態統計から見た多胎出産の動向」『厚生指標』40,pp.3-8.
- 櫃本真事・藤内修二.2006.「「健やか親子 21」推進の効果に関する研究～妊娠・出産期，子育てにおける満足度に影響を与える要因 及び次の出産意欲への影響要因について」『平成17年度厚生労働科学研究分担研究報告書「健やか親子 21」推進の効果に関する研究：地域における母子保健活動の評価の手引き：地域における「健やか親子 21」の推進のために』 pp.109-116.

- 尾崎米厚・藤内修二.2006.「「健やか親子 21」推進の効果に関する研究～妊娠・出産期、子育てにおける満足度に影響を与える要因及び次の出産意欲への影響要因の多重ロジスティック回帰分析～」『平成 17 年度厚生労働科学研究分担研究報告書 「健やか親子 21」推進の効果に関する研究： 地域における母子保健活動の評価の手引き： 地域における「健やか親子 21」の推進のために』 pp.117-125.
- 川又竹男.1999.「EU におけるパブリック・ヘルス政策の展開」海外社会保障研究 128,pp.37-51.
- 厚生省児童家庭局母子保健課.1999.『生涯を通じた女性の健康施策に関する研究報告書』
- 厚生労働省.2006.『平成 16 年国民健康・栄養調査報告』
- 国立社会保障・人口問題研究所.2006a.『第 13 回出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査： 夫婦調査の結果概要』.
- 国立社会保障・人口問題研究所.2006b.『第 13 回出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査： 独身者調査の結果概要』.
- 国立社会保障・人口問題研究所.2006c.『日本の将来推計人口（平成 18 年 12 月推計）推計手法と仮定設定』第 10 回社会保障審議会人口部会資料.
- 佐藤龍三郎・岩澤美帆.1998.「わが国の夫婦における妊娠・出生の調節： 妊娠歴の分析」『人口問題研究』第 54 巻 4 号,pp19-45.
- 佐藤龍三郎.2005.「少子化とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ」大淵寛・阿藤誠編著『少子化の政策学』原書房,pp.189-214.
- 「健やか親子 21」推進検討会.2006.『「健やか親子 21」中間報告書』
- 角南 重夫、勝山 博信.2005.「最近のわが国の低体重児割合の上昇要因に関する人口動態統計による分析」『厚生指標』 52-8,pp.27-32.
- レイモ,ジェームズ、岩澤美帆.2005.「婚前妊娠と配偶者選択： 新しい家族形成パターンの位置づけに向けて」共：ジェームズ・レイモ(編)高橋重郷, 厚生労働科学研究『少子化の新局面と家族・労働政策の対応に関する研究』平成 16 年度報告書,pp.141-168.
- 松田茂樹.2006.「育児不安が出産意欲に与える効果」第 58 回日本人口学会、慶応大学。
- 元森絵里子.2006.「「21 世紀出生児縦断調査」における保育担当者の意識分析に向けて」厚生労働科学研究『パネル調査(縦断調査)のデータマネジメント方策及び分析に関する総合的システムの開発研究』(主任研究者金子隆一) ,pp.363-382.
- 山田晋.1999.「ヨーロッパ連合における母性保護と保育政策」海外社会保障研究 128,pp.28-36.
- 横山美江.2002.「単胎児家庭の比較からみた双子家庭における育児問題の分析」『日本公衆衛生雑誌』 49(3),pp.229-235.

属性	標本数	総数	10代出生		総数	10代出生		
			10代の出生			RowPctN	10代の出生	
			ColPctN	ColPctN			RowPctN	RowPctN
N	ColPctN	ColPctN	ColPctN	RowPctN	RowPctN	RowPctN		
総数	47,015	100.0	100.0	100.0	100.0	1.4	98.6	
出生順位	1番目	23,503	50.0	93.2	49.4	100.0	2.6	97.5
	2番目	17,128	36.4	6.7	36.8	100.0	0.3	99.8
	3番目	5,323	11.3	0.0	11.5	100.0	0.0	100.0
	4番目以降	1,061	2.3	0.2	2.3	100.0	0.1	99.9
母出生時年齢	15-19歳	644	1.4	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0
	15	3	0.0	0.5	0.0	100.0	100.0	0.0
	16	31	0.1	4.9	0.0	100.0	100.0	0.0
	17	90	0.2	14.0	0.0	100.0	100.0	0.0
	18	159	0.3	24.7	0.0	100.0	100.0	0.0
	19	361	0.8	56.1	0.0	100.0	100.0	0.0
	20-24歳	5,683	12.1	0.0	12.3	100.0	0.0	100.0
	25-29歳	18,065	38.4	0.0	39.0	100.0	0.0	100.0
	30-34歳	16,561	35.2	0.0	35.7	100.0	0.0	100.0
	35-39歳	5,406	11.5	0.0	11.7	100.0	0.0	100.0
40-44歳	634	1.4	0.0	1.4	100.0	0.0	100.0	
45-49歳	22	0.1	0.0	0.1	100.0	0.0	100.0	
結婚持続期間	5年未満	32,918	70.0	84.5	69.8	100.0	1.7	98.4
	5~9年	11,341	24.1	0.0	24.5	100.0	0.0	100.0
	10~14年	1,711	3.6	0.0	3.7	100.0	0.0	100.0
	15~19年	206	0.4	0.0	0.4	100.0	0.0	100.0
	20~24年	15	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	不詳	212	0.5	1.4	0.4	100.0	4.3	95.8
	婚外出生	612	1.3	14.1	1.1	100.0	14.9	85.1
母学歴	中学校	1,822	3.9	36.0	3.4	100.0	12.7	87.3
	専修・専門学校(中学校卒業後)	583	1.2	0.8	1.3	100.0	0.9	99.1
	高校	17,157	36.5	37.1	36.5	100.0	1.4	98.6
	専修・専門学校(高校卒業後)	7,779	16.6	0.8	16.6	100.0	0.1	99.9
	短大・高専	10,255	21.8	0.3	22.1	100.0	0.0	100.0
	大学	5,792	12.3	0.2	12.5	100.0	0.0	100.0
	大学院	239	0.5	0.0	0.5	100.0	0.0	100.0
	その他	48	0.1	0.2	0.1	100.0	2.1	97.9
不詳	3,340	7.1	24.7	6.9	100.0	4.8	95.2	
父学歴	中学校	2,988	6.4	21.4	6.2	100.0	4.6	95.4
	専修・専門学校(中学校卒業後)	594	1.3	0.9	1.3	100.0	1.0	99.0
	高校	17,188	36.5	36.2	36.5	100.0	1.4	98.6
	専修・専門学校(高校卒業後)	5,415	11.5	5.8	11.6	100.0	0.7	99.3
	短大・高専	1,343	2.9	0.5	2.9	100.0	0.2	99.8
	大学	14,136	30.1	2.8	30.5	100.0	0.1	99.9
	大学院	1,489	3.2	0.0	3.2	100.0	0.0	100.0
	その他	51	0.1	0.0	0.1	100.0	0.0	100.0
不詳	3,831	8.2	32.5	7.8	100.0	5.5	94.5	
父母年収(1)	0~299万円	5,542	11.8	62.7	11.1	100.0	7.3	92.7
	300~399万円	6,552	13.9	14.4	13.9	100.0	1.4	98.6
	400~499万円	8,068	17.2	7.6	17.3	100.0	0.6	99.4
	500~599万円	7,345	15.6	3.4	15.8	100.0	0.3	99.7
	600~699万円	5,562	11.8	0.5	12.0	100.0	0.1	100.0
	700~799万円	3,726	7.9	0.5	8.0	100.0	0.1	99.9
	800~899万円	4,020	8.6	0.2	8.7	100.0	0.0	100.0
	1000~1199万円	1,758	3.7	0.0	3.8	100.0	0.0	100.0
	1200万円以上	1,317	2.8	0.2	2.8	100.0	0.1	99.9
	不詳	3,125	6.7	10.4	6.6	100.0	2.1	97.9
	父母年収(2)	0~299万円	4,622	9.8	33.4	9.5	100.0	4.7
300~399万円		6,863	14.6	15.1	14.6	100.0	1.4	98.6
400~499万円		8,029	17.1	4.7	17.3	100.0	0.4	99.6
500~599万円		6,887	14.7	1.9	14.8	100.0	0.2	99.8
600~699万円		4,600	9.8	0.9	9.9	100.0	0.1	99.9
700~799万円		2,989	6.4	0.3	6.4	100.0	0.1	99.9
800~899万円		2,921	6.2	0.0	6.3	100.0	0.0	100.0
1000~1199万円		1,116	2.4	0.0	2.4	100.0	0.0	100.0
1200万円以上		931	2.0	0.0	2.0	100.0	0.0	100.0
不詳		8,057	17.1	43.8	16.8	100.0	3.5	96.5
父母年収(4)		0~299万円	3,375	7.2	18.6	7.0	100.0	3.6
	300~399万円	6,030	12.8	14.0	12.8	100.0	1.5	98.5
	400~499万円	7,427	15.8	6.5	15.9	100.0	0.6	99.4
	500~599万円	6,369	13.6	3.0	13.7	100.0	0.3	99.7
	600~699万円	4,864	10.4	1.1	10.5	100.0	0.1	99.9
	700~799万円	3,266	7.0	0.5	7.0	100.0	0.1	99.9
	800~899万円	3,428	7.3	0.2	7.4	100.0	0.0	100.0
	1000~1199万円	1,615	3.4	0.0	3.5	100.0	0.0	100.0
	1200万円以上	1,385	3.0	0.0	3.0	100.0	0.0	100.0
	不詳	9,256	19.7	56.2	19.2	100.0	3.9	96.1
	母就業(妊娠前)	無職	20,389	43.4	24.1	43.6	100.0	0.8
学生		557	1.2	34.9	0.7	100.0	40.4	59.6
勤め(常勤)		14,886	31.7	12.3	31.9	100.0	0.5	99.5
勤め(パート・アルバイト)		8,099	17.2	24.7	17.1	100.0	2.0	98.0
自営業・家業		2,016	4.3	0.5	4.3	100.0	0.2	99.9
内職		424	0.9	0.3	0.9	100.0	0.5	99.5
その他		202	0.4	0.5	0.4	100.0	1.5	98.5
不詳	442	0.9	2.8	0.9	100.0	4.1	95.9	
母就業(1)	無職	34,513	73.4	78.1	73.3	100.0	1.5	98.5
	学生	99	0.2	2.6	0.2	100.0	17.2	82.8
	勤め(常勤)	7,257	15.4	3.7	15.6	100.0	0.3	99.7
	勤め(パート・アルバイト)	1,967	4.2	7.6	4.1	100.0	2.5	97.5
	自営業・家業	2,020	4.3	2.8	4.3	100.0	0.9	99.1
	内職	485	1.0	1.1	1.0	100.0	1.4	98.6
	その他	126	0.3	0.8	0.3	100.0	4.0	96.0
不詳	548	1.2	3.3	1.1	100.0	3.8	96.2	

属性	属性	標本数	総数		10代出生		総数	10代出生		
			N	ColPctN	10代の出生	その他		RowPctN	10代の出生	その他
					ColPctN	ColPctN			RowPctN	RowPctN
母就業 (2)	無職	29,908	63.6	51.4	63.8	100.0	1.1	98.9		
	学生	78	0.2	1.9	0.1	100.0	15.4	84.6		
	勤め(常勤)	6,536	13.9	3.4	14.1	100.0	0.3	99.7		
	勤め(パート・アルバイト)	4,434	9.4	16.5	9.3	100.0	2.4	97.6		
	自営業・家業	1,956	4.2	1.1	4.2	100.0	0.4	99.6		
	内職	608	1.3	0.6	1.3	100.0	0.7	99.3		
	その他	133	0.3	0.2	0.3	100.0	0.8	99.3		
	不詳	3,362	7.2	25.0	6.9	100.0	4.8	95.2		
母就業 (4)	無職	23,423	49.8	27.6	50.1	100.0	0.8	99.2		
	学生	74	0.2	0.9	0.2	100.0	8.1	91.9		
	勤め(常勤)	6,493	13.8	6.2	13.9	100.0	0.6	99.4		
	勤め(パート・アルバイト)	7,539	16.0	18.6	16.0	100.0	1.6	98.4		
	自営業・家業	2,205	4.7	0.9	4.7	100.0	0.3	99.7		
	内職	849	1.8	1.2	1.8	100.0	0.9	99.1		
	その他	400	0.9	0.3	0.9	100.0	0.5	99.5		
	不詳	6,032	12.8	44.1	12.4	100.0	4.7	95.3		
10代の出生	10代の出生	644	1.4	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0		
	その他	46,371	98.6	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0		
高齢初産	高齢初産	1,798	3.8	0.0	3.9	100.0	0.0	100.0		
	その他	45,217	96.2	100.0	96.1	100.0	1.4	98.6		
婚前妊娠	婚前妊娠	6,360	13.5	78.1	12.6	100.0	7.9	92.1		
	その他	40,655	86.5	21.9	87.4	100.0	0.4	99.7		
母喫煙	母喫煙なし	38,565	82.0	53.4	82.4	100.0	0.9	99.1		
	母喫煙(1日15本未満)	5,305	11.3	27.8	11.1	100.0	3.4	96.6		
	母喫煙(1日15本未満)室内	3,430	7.3	17.2	7.2	100.0	3.2	96.8		
	母喫煙(1日15本未満)その他	1,875	4.0	10.6	3.9	100.0	3.6	96.4		
	母喫煙(1日15本以上)	2,819	6.0	16.8	5.9	100.0	3.8	96.2		
	母喫煙(1日15本以上)室内	2,285	4.9	13.7	4.7	100.0	3.9	96.2		
	母喫煙(1日15本以上)その他	534	1.1	3.1	1.1	100.0	3.8	96.3		
	不詳	326	0.7	2.0	0.7	100.0	4.0	96.0		
父喫煙	父喫煙なし	16,772	35.7	12.0	36.0	100.0	0.5	99.5		
	父喫煙(1日15本未満)	7,374	15.7	20.5	15.6	100.0	1.8	98.2		
	父喫煙(1日15本未満)室内	2,989	6.4	9.9	6.3	100.0	2.1	97.9		
	父喫煙(1日15本未満)その他	4,385	9.3	10.6	9.3	100.0	1.6	98.5		
	父喫煙(1日15本以上)	21,075	44.8	53.3	44.7	100.0	1.6	98.4		
	父喫煙(1日15本以上)室内	13,265	28.2	36.5	28.1	100.0	1.8	98.2		
	父喫煙(1日15本以上)その他	7,810	16.6	16.8	16.6	100.0	1.4	98.6		
	不詳	1,794	3.8	14.3	3.7	100.0	5.1	94.9		
出生時体重	超低出生体重児	84	0.2	0.0	0.2	100.0	0.0	100.0		
	極低出生体重児	196	0.4	0.6	0.4	100.0	2.0	98.0		
	低出生体重児	3,725	7.9	8.2	7.9	100.0	1.4	98.6		
	その他	42,996	91.5	91.2	91.5	100.0	1.4	98.6		
	不詳	14	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0		
多胎	多胎	965	2.1	1.2	2.1	100.0	0.8	99.2		
	その他	46,050	98.0	98.8	97.9	100.0	1.4	98.6		

属性		標本数 N	総数 ColPctN	高齢初産		総数 RowPctN	高齢初産	
				高齢初産 ColPctN	その他 ColPctN		高齢初産 RowPctN	その他 RowPctN
				100.0	100.0		100.0	3.8
総数		47,015	100.0	100.0	100.0	100.0	3.8	96.2
出生順位	1番目	23,503	50.0	100.0	48.0	100.0	7.7	92.4
	2番目	17,128	36.4	0.0	37.9	100.0	0.0	100.0
	3番目	5,323	11.3	0.0	11.8	100.0	0.0	100.0
	4番目以降	1,061	2.3	0.0	2.4	100.0	0.0	100.0
	母出生時年齢	15-19歳	644	1.4	0.0	1.4	100.0	0.0
	15	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	16	31	0.1	0.0	0.1	100.0	0.0	100.0
	17	90	0.2	0.0	0.2	100.0	0.0	100.0
	18	159	0.3	0.0	0.4	100.0	0.0	100.0
	19	361	0.8	0.0	0.8	100.0	0.0	100.0
	20-24歳	5,683	12.1	0.0	12.6	100.0	0.0	100.0
	25-29歳	18,065	38.4	0.0	40.0	100.0	0.0	100.0
	30-34歳	16,561	35.2	0.0	36.6	100.0	0.0	100.0
	35-39歳	5,406	11.5	87.5	8.5	100.0	29.1	70.9
	40-44歳	634	1.4	12.2	0.9	100.0	34.7	65.3
	45-49歳	22	0.1	0.2	0.0	100.0	18.2	81.8
結婚持続期間	5年未満	32,918	70.0	65.5	70.2	100.0	3.6	96.4
	5～9年	11,341	24.1	22.3	24.2	100.0	3.5	96.5
	10～14年	1,711	3.6	7.2	3.5	100.0	7.6	92.4
	15～19年	206	0.4	1.1	0.4	100.0	9.2	90.8
	20～24年	15	0.0	0.1	0.0	100.0	13.3	86.7
	不詳	212	0.5	0.3	0.5	100.0	2.8	97.2
	婚外出生	612	1.3	3.5	1.2	100.0	10.3	89.7
	母学歴	中学校	1,822	3.9	2.3	3.9	100.0	2.3
	専修・専門学校(中学校卒業後)	583	1.2	1.1	1.3	100.0	3.3	96.7
	高校	17,157	36.5	33.4	36.6	100.0	3.5	96.5
	専修・専門学校(高校卒業後)	7,779	16.6	15.5	16.6	100.0	3.6	96.4
	短大・高専	10,255	21.8	24.1	21.7	100.0	4.2	95.8
	大学	5,792	12.3	17.5	12.1	100.0	5.4	94.6
	大学院	239	0.5	1.4	0.5	100.0	10.5	89.5
	その他	48	0.1	0.1	0.1	100.0	2.1	97.9
	不詳	3,340	7.1	4.7	7.2	100.0	2.5	97.5
父学歴	中学校	2,988	6.4	3.4	6.5	100.0	2.0	98.0
	専修・専門学校(中学校卒業後)	594	1.3	1.5	1.3	100.0	4.6	95.5
	高校	17,168	36.5	30.7	36.8	100.0	3.2	96.8
	専修・専門学校(高校卒業後)	5,415	11.5	9.3	11.6	100.0	3.1	96.9
	短大・高専	1,343	2.9	2.4	2.9	100.0	3.2	96.8
	大学	14,136	30.1	40.1	29.7	100.0	5.1	94.9
	大学院	1,489	3.2	5.8	3.1	100.0	7.0	93.0
	その他	51	0.1	0.2	0.1	100.0	5.9	94.1
不詳	3,831	8.2	6.7	8.2	100.0	3.1	96.9	
父母年収(1)	0～299万円	5,542	11.8	8.3	11.9	100.0	2.7	97.3
	300～399万円	6,552	13.9	6.8	14.2	100.0	1.9	98.1
	400～499万円	8,068	17.2	11.3	17.4	100.0	2.5	97.5
	500～599万円	7,345	15.6	12.0	15.8	100.0	2.9	97.1
	600～699万円	5,562	11.8	13.7	11.8	100.0	4.4	95.6
	700～799万円	3,726	7.9	10.2	7.8	100.0	4.9	95.1
	800～999万円	4,020	8.6	14.4	8.3	100.0	6.4	93.6
	1000～1199万円	1,758	3.7	8.3	3.6	100.0	8.5	91.5
	1200万円以上	1,317	2.8	9.4	2.5	100.0	12.8	87.2
	不詳	3,125	6.7	5.6	6.7	100.0	3.2	96.8
	父母年収(2)	0～299万円	4,622	9.8	7.7	9.9	100.0	3.0
300～399万円		6,863	14.6	7.9	14.9	100.0	2.1	97.9
400～499万円		8,029	17.1	12.1	17.3	100.0	2.7	97.3
500～599万円		6,887	14.7	14.1	14.7	100.0	3.7	96.3
600～699万円		4,600	9.8	11.7	9.7	100.0	4.6	95.4
700～799万円		2,989	6.4	9.8	6.2	100.0	5.9	94.1
800～999万円		2,921	6.2	11.5	6.0	100.0	7.1	92.9
1000～1199万円		1,116	2.4	5.2	2.3	100.0	8.3	91.7
1200万円以上		931	2.0	5.3	1.9	100.0	10.2	89.8
不詳		8,057	17.1	14.6	17.2	100.0	3.3	96.7
父母年収(4)		0～299万円	3,378	7.2	5.7	7.2	100.0	3.1
	300～399万円	6,030	12.8	9.5	13.0	100.0	2.8	97.2
	400～499万円	7,427	15.8	11.5	16.0	100.0	2.8	97.2
	500～599万円	6,369	13.6	11.0	13.7	100.0	3.1	96.9
	600～699万円	4,864	10.4	12.6	10.3	100.0	4.7	95.4
	700～799万円	3,266	7.0	9.2	6.9	100.0	5.1	95.0
	800～999万円	3,428	7.3	11.5	7.1	100.0	6.0	94.0
	1000～1199万円	1,615	3.4	6.7	3.3	100.0	7.4	92.6
	1200万円以上	1,385	3.0	7.2	2.8	100.0	9.3	90.7
	不詳	9,256	19.7	15.4	19.9	100.0	3.0	97.0
	母就業(妊娠前)	無職	20,389	43.4	30.1	43.9	100.0	2.7
学生		557	1.2	0.5	1.2	100.0	1.6	98.4
勤め(常勤)		14,886	31.7	40.8	31.3	100.0	4.9	95.1
勤め(パート・アルバイト)		8,099	17.2	18.8	17.2	100.0	4.2	95.6
自営業・家業		2,016	4.3	7.5	4.2	100.0	6.7	93.3
内職		424	0.9	0.5	0.9	100.0	2.1	97.9
その他		202	0.4	0.7	0.4	100.0	5.9	94.1
不詳	442	0.9	1.1	0.9	100.0	4.5	95.5	
母就業(1)	無職	34,513	73.4	68.5	73.6	100.0	3.6	96.4
	学生	99	0.2	0.2	0.2	100.0	4.0	96.0
	勤め(常勤)	7,257	15.4	20.9	15.2	100.0	5.2	94.8
	勤め(パート・アルバイト)	1,967	4.2	1.7	4.3	100.0	1.6	98.4
	自営業・家業	2,020	4.3	6.5	4.2	100.0	5.7	94.3
	内職	485	1.0	0.4	1.1	100.0	1.7	98.4
	その他	126	0.3	0.1	0.3	100.0	1.6	98.4
	不詳	548	1.2	1.7	1.1	100.0	5.7	94.3

属性		標本数	総数		高年齢初産		総数	高年齢初産		
			N	ColPctN	高年齢初産			RowPctN	高年齢初産	
					ColPctN	その他			RowPctN	その他
母就業 (2)	無職	29,908	63.6	63.3	63.6	100.0	3.8	96.2		
	学生	78	0.2	0.2	0.2	100.0	5.1	94.9		
	勤め(常勤)	6,536	13.9	18.4	13.7	100.0	5.1	94.9		
	勤め(パート・アルバイト)	4,434	9.4	5.3	9.6	100.0	2.2	97.8		
	自営業・専業	1,956	4.2	7.0	4.1	100.0	6.4	93.6		
	内職	608	1.3	0.8	1.3	100.0	2.3	97.7		
	その他	133	0.3	0.3	0.3	100.0	4.5	95.5		
	不詳	3,362	7.2	4.7	7.3	100.0	2.5	97.5		
母就業 (4)	無職	23,423	49.8	52.4	49.7	100.0	4.0	96.0		
	学生	74	0.2	0.2	0.2	100.0	4.1	96.0		
	勤め(常勤)	6,493	13.8	17.9	13.7	100.0	4.9	95.1		
	勤め(パート・アルバイト)	7,539	16.0	11.9	16.2	100.0	2.8	97.2		
	自営業・専業	2,205	4.7	7.1	4.6	100.0	5.8	94.2		
	内職	849	1.8	0.6	1.9	100.0	1.2	98.8		
	その他	400	0.9	1.0	0.9	100.0	4.3	95.8		
	不詳	6,032	12.8	9.2	13.0	100.0	2.7	97.3		
10代の出生	10代の出生	644	1.4	0.0	1.4	100.0	0.0	100.0		
	その他	46,371	98.6	100.0	98.6	100.0	3.9	96.1		
高年齢初産	高年齢初産	1,798	3.8	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0		
	その他	45,217	96.2	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0		
婚前妊娠	婚前妊娠	6,360	13.5	12.4	13.6	100.0	3.5	96.5		
	その他	40,655	86.5	87.6	86.4	100.0	3.9	96.1		
母喫煙	母喫煙なし	38,565	82.0	88.5	81.8	100.0	4.1	95.9		
	母喫煙(1日15本未満)	5,305	11.3	7.1	11.5	100.0	2.4	97.6		
	母喫煙(1日15本未満)室内	3,430	7.3	3.7	7.4	100.0	2.0	98.1		
	母喫煙(1日15本未満)その他	1,875	4.0	3.3	4.0	100.0	3.2	96.8		
	母喫煙(1日15本以上)	2,819	6.0	3.9	6.1	100.0	2.5	97.5		
	母喫煙(1日15本以上)室内	2,285	4.9	3.1	4.9	100.0	2.4	97.6		
	母喫煙(1日15本以上)その他	534	1.1	0.8	1.2	100.0	2.8	97.2		
	不詳	326	0.7	0.6	0.7	100.0	3.1	96.9		
父喫煙	父喫煙なし	16,772	35.7	45.9	35.3	100.0	4.9	95.1		
	父喫煙(1日15本未満)	7,374	15.7	11.6	15.9	100.0	2.8	97.2		
	父喫煙(1日15本未満)室内	2,989	6.4	4.1	6.5	100.0	2.4	97.6		
	父喫煙(1日15本未満)その他	4,385	9.3	7.6	9.4	100.0	3.1	96.9		
	父喫煙(1日15本以上)	21,075	44.8	37.7	45.1	100.0	3.2	96.8		
	父喫煙(1日15本以上)室内	13,265	28.2	19.0	28.6	100.0	2.6	97.4		
	父喫煙(1日15本以上)その他	7,810	16.6	18.7	16.5	100.0	4.3	95.7		
	不詳	1,794	3.8	4.8	3.8	100.0	4.6	95.2		
出生時体重	超低出生体重児	84	0.2	0.4	0.2	100.0	8.3	91.7		
	極低出生体重児	196	0.4	1.0	0.4	100.0	9.2	90.8		
	低出生体重児	3,725	7.9	11.6	7.8	100.0	5.6	94.4		
	その他	42,996	91.5	87.0	91.6	100.0	3.6	96.4		
	不詳	14	0.0	0.1	0.0	100.0	7.1	92.9		
多胎	多胎	965	2.1	4.0	2.0	100.0	7.4	92.6		
	その他	46,050	98.0	96.1	98.0	100.0	3.8	96.3		

属性		標本数	総数	婚前妊娠結婚		総数	婚前妊娠結婚	
				婚前妊娠	その他		婚前妊娠	その他
				ColPctN	ColPctN		RowPctN	RowPctN
総数		47,015	100.0	100.0	100.0	100.0	13.5	86.5
出生順位	1番目	23,503	50.0	90.1	43.7	100.0	24.4	75.6
	2番目	17,128	36.4	6.5	41.1	100.0	2.4	97.6
	3番目	5,323	11.3	2.5	12.7	100.0	3.0	97.0
	4番目以降	1,061	2.3	0.9	2.5	100.0	5.5	94.5
母出生時年齢	15-19歳	644	1.4	7.9	0.4	100.0	78.1	21.9
	15	3	0.0	0.1	0.0	100.0	100.0	0.0
	16	31	0.1	0.4	0.0	100.0	80.7	19.4
	17	90	0.2	1.1	0.0	100.0	80.0	20.0
	18	159	0.3	2.0	0.1	100.0	78.6	21.4
	19	361	0.8	4.4	0.2	100.0	77.0	23.0
	20-24歳	5,683	12.1	38.3	8.0	100.0	42.8	57.2
	25-29歳	18,065	38.4	34.2	39.1	100.0	12.0	88.0
	30-34歳	16,561	35.2	14.0	38.5	100.0	5.4	94.6
	35-39歳	5,406	11.5	4.8	12.5	100.0	5.7	94.3
結婚持続期間	40-44歳	634	1.4	0.8	1.4	100.0	8.2	91.8
	45-49歳	22	0.1	0.0	0.1	100.0	9.1	90.9
	5年未満	32,918	70.0	90.4	66.8	100.0	17.5	82.5
	5~9年	11,341	24.1	0.0	27.9	100.0	0.0	100.0
	10~14年	1,711	3.6	0.0	4.2	100.0	0.0	100.0
	15~19年	206	0.4	0.0	0.5	100.0	0.0	100.0
	20~24年	15	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
不詳	212	0.5	0.0	0.5	100.0	0.0	100.0	
婚外出生	612	1.3	9.6	0.0	100.0	100.0	0.0	
母学歴	中学校	1,822	3.9	8.3	3.2	100.0	28.9	71.1
	専修・専門学校(中学校卒業後)	583	1.2	1.8	1.2	100.0	19.0	81.0
	高校	17,157	36.5	39.4	36.0	100.0	14.6	85.4
	専修・専門学校(高校卒業後)	7,779	16.6	15.6	16.7	100.0	12.7	87.3
	短大・高専	10,255	21.8	15.4	22.8	100.0	9.5	90.5
	大学	5,792	12.3	6.9	13.2	100.0	7.6	92.4
	大学院	239	0.5	0.3	0.5	100.0	8.4	91.6
	その他	48	0.1	0.2	0.1	100.0	20.8	79.2
	不詳	3,340	7.1	12.3	6.3	100.0	23.4	76.6
	父学歴	中学校	2,988	6.4	10.9	5.6	100.0	23.3
専修・専門学校(中学校卒業後)		594	1.3	1.2	1.3	100.0	12.6	87.4
高校		17,168	36.5	40.1	36.0	100.0	14.9	85.2
専修・専門学校(高校卒業後)		5,415	11.5	11.5	11.5	100.0	13.4	86.6
短大・高専		1,343	2.9	1.7	3.0	100.0	8.2	91.8
大学		14,136	30.1	16.2	32.2	100.0	7.3	92.7
大学院		1,489	3.2	1.4	3.4	100.0	6.1	93.9
その他		51	0.1	0.1	0.1	100.0	15.7	84.3
不詳		3,831	8.2	16.9	6.8	100.0	28.1	71.9
父母年収(1)		0~299万円	5,542	11.8	27.5	9.3	100.0	31.6
	300~399万円	6,552	13.9	15.9	13.6	100.0	15.4	84.6
	400~499万円	8,068	17.2	14.4	17.6	100.0	11.3	88.7
	500~599万円	7,345	15.6	11.8	16.2	100.0	10.3	89.8
	600~699万円	5,562	11.8	7.9	12.4	100.0	9.1	90.9
	700~799万円	3,726	7.9	5.3	8.3	100.0	9.0	91.0
	800~899万円	4,020	8.6	5.0	9.1	100.0	8.0	92.0
	1000~1199万円	1,758	3.7	1.7	4.1	100.0	6.1	93.9
	1200万円以上	1,317	2.8	1.3	3.0	100.0	6.1	93.9
	不詳	3,125	6.7	9.2	6.3	100.0	18.8	81.3
父母年収(2)	0~299万円	4,622	9.8	20.1	8.2	100.0	27.6	72.4
	300~399万円	6,863	14.6	18.3	14.0	100.0	16.9	83.1
	400~499万円	8,029	17.1	14.3	17.5	100.0	11.3	88.7
	500~599万円	6,887	14.7	8.7	15.6	100.0	8.0	92.0
	600~699万円	4,600	9.8	5.1	10.5	100.0	7.1	92.9
	700~799万円	2,989	6.4	2.5	7.0	100.0	5.3	94.7
	800~899万円	2,921	6.2	2.1	6.9	100.0	4.6	95.4
	1000~1199万円	1,116	2.4	0.6	2.6	100.0	3.7	96.3
	1200万円以上	931	2.0	0.8	2.2	100.0	5.2	94.8
	不詳	8,057	17.1	27.6	15.5	100.0	21.8	78.2
父母年収(4)	0~299万円	3,375	7.2	13.2	6.2	100.0	24.9	75.1
	300~399万円	6,030	12.8	17.0	12.2	100.0	17.9	82.1
	400~499万円	7,427	15.8	14.2	16.0	100.0	12.2	87.8
	500~599万円	6,369	13.6	8.7	14.3	100.0	8.7	91.3
	600~699万円	4,864	10.4	5.9	11.1	100.0	7.7	92.3
	700~799万円	3,266	7.0	3.5	7.5	100.0	6.9	93.1
	800~899万円	3,428	7.3	2.7	8.0	100.0	5.0	95.0
	1000~1199万円	1,615	3.4	0.9	3.8	100.0	3.7	96.3
	1200万円以上	1,385	3.0	1.0	3.2	100.0	4.8	95.2
	不詳	9,256	19.7	32.9	17.6	100.0	22.6	77.4
母就業(妊娠前)	無職	20,389	43.4	14.1	47.9	100.0	4.4	95.6
	学生	557	1.2	6.6	0.3	100.0	75.8	24.2
	勤め(常勤)	14,886	31.7	52.9	28.4	100.0	22.6	77.4
	勤め(パート・アルバイト)	8,099	17.2	22.2	16.5	100.0	17.4	82.6
	自営業・家業	2,016	4.3	2.3	4.6	100.0	7.3	92.7
	内職	424	0.9	0.3	1.0	100.0	4.0	96.0
	その他	202	0.4	0.5	0.4	100.0	14.4	85.6
不詳	442	0.9	1.2	0.9	100.0	17.4	82.6	
母就業(1)	無職	34,513	73.4	73.5	73.4	100.0	13.5	86.5
	学生	99	0.2	0.9	0.1	100.0	55.6	44.4
	勤め(常勤)	7,257	15.4	15.3	15.5	100.0	13.4	86.6
	勤め(パート・アルバイト)	1,967	4.2	5.1	4.1	100.0	16.3	83.7
	自営業・家業	2,020	4.3	2.6	4.5	100.0	8.7	91.3
	内職	485	1.0	0.8	1.1	100.0	9.9	90.1
	その他	126	0.3	0.2	0.3	100.0	11.1	88.9
不詳	548	1.2	1.6	1.1	100.0	18.8	81.2	

属性		標本数	総数		婚前妊娠結婚		総数	婚前妊娠結婚	
			ColPctN	婚前妊娠		RowPctN		婚前妊娠	
				ColPctN	その他			RowPctN	その他
母 就 業 (2)	無職	29,908	63.6	58.2	64.5	100.0	12.4	87.6	
	学生	78	0.2	0.6	0.1	100.0	46.2	53.9	
	勤め(常勤)	6,536	13.9	13.4	14.0	100.0	13.1	86.9	
	勤め(パート・アルバイト)	4,434	9.4	11.9	9.0	100.0	17.1	82.9	
	自営業・家業	1,956	4.2	2.7	4.4	100.0	8.8	91.2	
	内職	608	1.3	0.8	1.4	100.0	8.4	91.6	
	その他	133	0.3	0.1	0.3	100.0	5.3	94.7	
	不詳	3,362	7.2	12.3	6.4	100.0	23.3	76.7	
母 就 業 (4)	無職	23,423	49.8	40.9	51.2	100.0	11.1	88.9	
	学生	74	0.2	0.2	0.2	100.0	20.3	79.7	
	勤め(常勤)	6,493	13.8	13.9	13.8	100.0	13.7	86.4	
	勤め(パート・アルバイト)	7,539	16.0	18.4	15.7	100.0	15.5	84.5	
	自営業・家業	2,205	4.7	3.2	4.9	100.0	9.2	90.8	
	内職	849	1.8	1.3	1.9	100.0	10.0	90.0	
	その他	400	0.9	0.6	0.9	100.0	10.3	89.8	
	不詳	6,032	12.8	21.5	11.5	100.0	22.6	77.4	
10代の出生	10代の出生	644	1.4	7.9	0.4	100.0	78.1	21.9	
	その他	46,371	98.6	92.1	99.7	100.0	12.6	87.4	
高齢初産	高齢初産	1,798	3.8	3.5	3.9	100.0	12.4	87.6	
	その他	45,217	96.2	96.5	96.1	100.0	13.6	86.4	
婚前妊娠	婚前妊娠	6,360	13.5	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	
	その他	40,655	86.5	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	
母 喫 煙	母喫煙なし	38,565	82.0	67.9	84.3	100.0	11.2	88.8	
	母喫煙(1日15本未満)	5,305	11.3	19.9	9.9	100.0	23.9	76.1	
	母喫煙(1日15本未満)室内	3,430	7.3	12.3	6.5	100.0	22.7	77.3	
	母喫煙(1日15本未満)その他	1,875	4.0	7.6	3.4	100.0	25.9	74.1	
	母喫煙(1日15本以上)	2,819	6.0	11.3	5.2	100.0	25.4	74.6	
	母喫煙(1日15本以上)室内	2,285	4.9	8.7	4.3	100.0	24.3	75.7	
	母喫煙(1日15本以上)その他	534	1.1	2.6	0.9	100.0	30.3	69.7	
	不詳	326	0.7	1.0	0.7	100.0	19.0	81.0	
父 喫 煙	父喫煙なし	16,772	35.7	21.5	37.9	100.0	8.1	91.9	
	父喫煙(1日15本未満)	7,374	15.7	18.6	15.2	100.0	16.0	84.0	
	父喫煙(1日15本未満)室内	2,989	6.4	7.7	6.2	100.0	16.3	83.7	
	父喫煙(1日15本未満)その他	4,385	9.3	10.9	9.1	100.0	15.9	84.2	
	父喫煙(1日15本以上)	21,075	44.8	50.0	44.0	100.0	15.1	84.9	
	父喫煙(1日15本以上)室内	13,265	28.2	31.3	27.7	100.0	15.0	85.0	
	父喫煙(1日15本以上)その他	7,810	16.6	18.7	16.3	100.0	15.2	84.8	
	不詳	1,794	3.8	10.0	2.9	100.0	35.4	64.6	
出 生 時 体 重	超低出生体重児	84	0.2	0.1	0.2	100.0	10.7	89.3	
	極低出生体重児	196	0.4	0.5	0.4	100.0	15.3	84.7	
	低出生体重児	3,725	7.9	9.2	7.7	100.0	15.7	84.3	
	その他	42,996	91.5	90.2	91.7	100.0	13.3	86.7	
	不詳	14	0.0	0.0	0.0	100.0	7.1	92.9	
多胎	多胎	965	2.1	1.0	2.2	100.0	6.4	93.6	
	その他	46,050	98.0	99.0	97.8	100.0	13.7	86.3	